

令和2年度愛媛県がん相談支援推進協議会の開催結果について【概要】

- 1 会議名 令和2年度愛媛県がん相談支援推進協議会
- 2 開催日時 令和3年1月28日（木） 19：00～20：20
- 3 開催方法 オンライン会議
- 4 出席委員 伊藤由紀子委員、井上哲志委員、灘野成人委員、羽藤慎二委員、早瀬昌美委員、松本陽子委員（欠席：松岡誠子委員）
- 5 次第
 - (1) 開会
 - (2) 健康増進課長挨拶
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 議題
 - ・相談支援に関する取組み状況等について
 - ・来年度以降実施事業の内容検討について
 - ・その他

【会議概要】

（健康増進課長挨拶）

- ・今年度は、新型コロナの影響により、相談支援センターや患者サロンでは、困難な面もありいろいろと工夫いただいたことと思う。このような状況の中、がんに罹った方や家族の方の悩み、不安は、いままで以上に大きくなっているのではと感じる。こうした中、県としても正しい情報をしっかりと県民に届け、誰でも不安や悩みを相談できる体制を引き続き強化を図ってまいりますので、引き続き皆様の御協力を賜りたい。今年度は、第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価の公表を行う予定であったが、コロナ感染対策もあり、公表時期を1年延期したいと考えている。その代わりに、コロナ禍で見えてきた新たな課題や新しい生活様式下での取組みなどを踏まえた中間評価にしたいと考えているので、この後の協議で御意見を賜りたい。

（羽藤会長）

- ・この一年間、コロナの影響により相談支援では対面の制限やイベントの中止など大変だったと感じる。ただし、最近では、各部署で感染対策のいろいろな工夫をされて患者さんや家族のために活動を進めている。このコロナ禍でこそその活動を考えていく必要があるだろうし、コロナだからこそ患者さんや家族にとって相談支援にアクセスしやすいものにしていく必要があるだろう。更なる相談支援の充実のためにも本日の協議会では委員の皆様と活発な議論を行いたいので、よろしく願います。

○議題1 相談支援に関する取組み状況について

（羽藤会長）

- ・まず、相談支援に関する取組状況等について事務局より説明をお願いします。

（事務局）

- ・本協議会の開催状況について、今回が通算11回目の開催となる。
- ・今年度の県の予算について、がん相談・情報提供支援事業としておれんじの会への委託事業が2,052千円、拠点病院に対する補助事業が6,000千円となっている。地域医療介護総合確保基金では、町なかサロンや四国がんセンターの患者・家族総合支援センターの運営等に補助している。
- ・昨年度のがん相談・情報提供支援事業の実施状況について、おれんじの会に委託している「がん相談・情報提供支援事業」は昨年度はコロナの影響も少なかったことから例年と同程度の内容。

今年度はコロナの影響を大きく受け、ピアサポート活動や拠点病院でのサロンの縮小など状況が大きく変わったことから、後ほど松本委員から御報告いただきたい。

- ・がん情報のポータルサイト「がんサポートサイトえひめ」の内容。がん登録部会、がん相談支援専門部会、患者会の皆様の御協力により内容が充実したサイトとなっている。

(羽藤会長)

- ・続いて、四国がんセンターの患者・家族総合支援センターについてご報告をお願いします。

(灘野委員)

- ・暖だんの利用者数については、コロナの影響で4月、5月は閉館、6月から入院患者限定で開館。10月から午前中は外来患者、午後から入院患者を対象に開館している。催し物はセミナーを中心に7月から再開している。ただし、サロンは現在も実施できておらず、どのように再開するか検討しているところ。なお、今年度のサロンは中止としている。
- ・がん相談支援専門部会の開催状況、報告内容等については、がん診療連携協議会のホームページに掲載している。今年度はコロナのため、専門部会はWEB開催とし、第1回目を7月に開催した。また、第2回目は11月に開催した。専門部会は4つのワーキングで活発的に活動しているところ。ワーキングの一つのチェックリストワーキングでは、がん相談支援のPDCAサイクルを回し、がん相談支援の質の向上を目指して活動している。今年度も各病院から提出してもらい、年度中に評価を行い、来年度に報告したい。
- ・広報活動については、11月8日に県立図書館と連携し、セミナーと出張相談を実施したが、コロナの影響もあり、相談者はゼロであった。また、3月に新居浜で出張相談の予定であったが、コロナにより中止となった。
- ・相談員の研修会を11月14日にオンラインで実施し、県内18名、県外15名の参加があった。準備等大変であったが、オンラインでの研修の経験ができたことから、来年度も引き続き実施したい。

(羽藤会長)

- ・続いて、松本委員の町なかサロンの事業についてご報告をお願いします。

(松本委員)

- ・今年度はあらゆる相談業務が止まっているという状況。まず、病院サロンについては、ピアサポーターを派遣している全病院のサロンが4月から中止になっている。1回だけ、11月6日に四国がんセンターの暖だんで、若年がん患者のサロンが開催された際、オンラインで町なかサロンと結んで交流を行った。患者さんとの交流も図れたことから、いい取組みであったと思う。
- ・市立宇和島病院と松山赤十字病院での就労支援事業について、対面での相談は中止となったが、市立宇和島病院では、電話での相談を実施した。
- ・町なかサロンの状況については、緊急事態宣言下の4月14日から6月7日までの間は対面での相談を休止とし、電話相談のみとした。4月14日から5月10日までは完全に閉館したが、5月11日から6月7日までは業務を縮小して開館、6月8日以降は感染対策を講じながら通常運営している。病院サロンが休止となっていることから町なかサロンを利用する方や病院の相談支援センターを利用しづらいという家族の方など、不安を抱えている方の利用が見受けられた。病院の相談支援センターの中で対面相談を取りやめているところもあり、電話等での相談を仲介したケースもあった。
- ・ピアサポーター養成研修について、例年は2日間の研修だが今年度は1日間のみで行った。8人が受講し、その後フォローアップを行い、現在3人が活動を始めている。現在活動しているピ

アサポーターのフォローアップ研修も実施し、10月に事例検討会や他県の取組みに学ぶ研修会を行った。

- ・来年度に向けて、他県では病院サロンをオンラインで実施しているところもあり、ピアサポーターもオンラインで参加しているようであるので、皆様のご意見をお伺いしながら検討していきたい。

(羽藤会長)

- ・病院によって事情は異なると思うが、病院サロンの再開は難しいのであろうか。

(松本委員)

- ・病院は医療を守っていくという使命があることから、なかなか再開は難しいのではないかと感じる。

(灘野委員)

- ・サロンに参加を希望する方がいるかどうかは分からないが、一步踏み出してみる必要があると思うので、オンラインなども活用しながら四国がんセンターでの実施に向けて検討していきたい。

(早瀬委員)

- ・四国がんセンターが実施している「図書館でがんを学ぼう」というイベントはとてもいい内容だと思うので、今回は参加者が少なかったということだったが、次回はより多くの県民に広報できたらいいのではないかと思う。

(灘野委員)

- ・図書館との共催イベントは、毎年交互に会場を入れ替えて実施しているものであり、今年度も同様に開催したが、コロナ禍のため広報活動にも限界があり、残念な結果になってしまった。例年であればもう少し参加者が多いのだが、来年度はもう少し広報にも力を入れたい。

○議題2 来年度以降実施事業の内容検討について

(羽藤会長)

- ・つづいて、来年度以降の事業について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- ・来年度以降の事業については、まだ令和3年度予算の成立前のため確定した内容ではないが、今年度と同程度の事業を予定している。
- ・第3期がん対策推進計画の中間評価については、今年度評価を行い、年度末に公表予定であったが、1年延期させていただきたい。国のがん対策推進基本計画の中間評価のスケジュールが昨年10月に示され、来年度後半に公表されるスケジュールとなっている。今後、がん相談支援推進協議会、在宅緩和ケア推進協議会、がん対策推進委員会の意見をいただきながら、来年度前半にかけて中間評価案を作成し、当協議会や在宅緩和ケア推進協議会、がん対策推進委員会で中間評価を決定したいと考えている。資料7が、中間評価全体像であるが、第3期県がん対策推進計画には3つの全体目標があり、それぞれの分野の目標を達成するための167対策について指標を設定しアウトプット値を確認したいと考えている。指標については、拠点・推進病院の現況報告書や各種統計資料のほか、相談支援専門部会のチェックリスト等がん対策推進委員会、当協議会、在宅緩和ケア推進協議会、がん診療連携協議会等の意見を踏まえて設定する。次に、分野別のアウ

トカム、全体目標のアウトカムとして、平成30年度に厚生労働省が実施した「患者体験調査」の愛媛県での結果を用いることを考えている。指標については概ね国が使用する指標と同じものを使うことを考えている。全体的な中間評価の総括として、がん対策推進委員会として、計画全般の振り返りや意見、コロナ禍で出てきた課題について、計画後半、第4期計画への提言等をいただくことで中間評価としたいと考えている。なお、各対策の指標について、指標No.の箇所に★を記載している項目は検討中であるので、今後、当協議会やがん診療連携協議会等の委員の意見を踏まえ、決定していきたいと考えている。

(羽藤会長)

- ・先ほどの説明に関して何かご意見はあるか。
- ・各指標におけるアウトプット値に関して、今年度はコロナの影響で例年と大きく変わってくると思うが、どのような取扱いを考えているか。

(事務局)

- ・例えば、拠点病院の現況報告書についても今年度分は令和元年度の実績をもって判断することとなっており、特に相談支援の分野は、今年度思うように事業が実施できていないことから、基本的には令和元年度の数値を使い、最新値が取れる項目は最新値を使うことを考えている。

(松本委員)

- ・来年度の作業について、各指標の実績値を埋めていくとともに、課題などの洗い出しを行っていくということでのよいのか。

(事務局)

- ・各指標の数値については早い段階で埋めていき、それを踏まえて課題の洗い出し等を行っていきたいと考えている。

(松本委員)

- ・来年度の作業のスケジュールについてだが、当協議会での協議は早い時点で開催していただきたいと思うがいかがか。

(事務局)

- ・皆様のご意見をお聞きする機会は早期の段階で設けたいと考えている。正式な協議会では意見交換が難しいことも考えられるので、任意の意見交換である程度の形にした段階で正式な協議会を開催するなど、方法については検討させていただきたい。

(羽藤会長)

- ・中間評価で重要な点は、計画前半の実績をしっかりと捉えた上で、計画後半や第4期計画の取組みに活かしていくことだと思うので、委員の皆様の様々なご意見をお聞きしながら評価を作成していきたい。

(事務局)

- ・コロナが収束するめどが立たない中、来年度も対面での相談業務は制約を受けての活動になるなど今年度の同じような状況が続くだろう。中間評価についても、これまでの実績と今年度の状況を比較することは困難であることから、来年度、評価の内容についてご協議いただくことも何かと難しい面が出てくるのではないかと思う。中間評価を決定するための正式な協議会を開催する

必要があると思うが、来年度に入ったら、委員の皆様からのご意見のいただき方などを含め、開催方法等工夫して進めていきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。

(松本委員)

- ・議題以外のことでお聞きしたいが、県内の拠点病院の相談支援センターの中で対面相談を制限している病院があるという話を聞くが、対応は医療機関次第になっているのか。コロナの影響ということは十分に理解しているが、がん患者さんのためにも何か工夫していただけるとありがたいし、一緒に検討できることは考えていきたい。

(灘野委員)

- ・現状は把握していないが、がん相談支援専門部会として現状を確認してみることを検討したい。

(羽藤会長)

- ・多くの病院で面会制限の状況であり、相談支援の業務でも制限がかかっているのではないかと推察はされるが、コロナという状況の中で、どのようにこれまでと同レベルの相談支援に近づけるのかという知恵や工夫を出し合っていかなければならない。

(松本委員)

- ・コロナ禍で、重要な面談の際に同席する家族の数が絞られており、家族の中で共通理解ができなかったり、高齢夫婦のみで面談を受け理解ができないままになってしまうなど、患者さん側も医師の側も困っている状況だと思う。なんとかできればと考えている。

(井上委員)

- ・昨年度の協議会で高校生の教育について取り組みたいと協議したが、コロナの影響もあり取り組めないままとなった。先ほど別件で愛媛大学医学部小児科の江口教授と面談した際、高校生のがんは小児科で治療するという流れになっており、入院等で長期療養中の高校生の教育ということが大きな課題になっているという認識を示された。コロナ禍で通常の教育でもリモート体制が整備され始めたことから、課題の改善に向けてがん対策推進委員会でも取り上げていきたいというご意見をいただいたことから、来年度は一步でも前進するよう取り組んでいきたい。

(羽藤会長)

- ・本日は各委員から多くのご意見をいただいた。本日の意見については、3月に開催されるがん対策推進委員会で報告することとしたい。